

令和四年度入学試験

国 語 解 答 紙 (その 1)

採 点 欄

氏名 _____

受験番号 _____

合計点 _____

問一 問二 問三 問四 問五 問六

ア	緩衝
イ	即物
ウ	先鋭
エ	伴
オ	
カ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
カ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
カ	
キ	
ク	
ケ	
コ	
カ	
キ	
ク	
ケ	
コ	

(1) 近代化の結果として生じ、空時を超えて広まる可能性によって人類全体に脅威を与え得て、五感では直接知覚できない点。

(2) 「リスク」が、科学的方法によって検出し解明し得るのに対して、「不可知性」は、同じ方法では検出も解明も困難である、という点。

(1) はじめは人間全体の連帯を「実現可能な理想」として想定できたが、その後連帯は「実現可能な虚構」としてのみ共有され、最後には連帯についていかなる虚構も共有できず、不可可能性しか共有できないような時代になった、ということ。

(2) これまでの「非—現実」のイメージの変遷は、いずれも不可知である人間の連帯を目指すものであったが、現代の不可知性は、人間以外の存在がもたらすものが多くなったことを踏まえ、これからはそうした不可知性と共存が問題であることを指摘するため。

人新世とは人間が自然に働きかけること。いまは人間が自然を制御できず、終わりに向かっている。いつかある時代だが、それを受け入れる。人間は自然との逆説的な関係を述べ、危機が永遠に終わらないと述べている。また、人間は共存の不可可能性を受け入れ、絶望することで本当の希望を持つことができると考えている。

【文章Ⅰ】は「不可知性」をキーワードにして人類社会の全体を攪乱する外的な不可知性との共存のあり方が問題となっているが、その不可知性の対象は自然と人工物の両方を含む。また、共存の希望を捨てていない。【文章Ⅱ】は「終わり」をキーワードにして人間と自然との逆説的な関係を述べ、危機が永遠に終わらないと述べている。また、人間は共存の不可可能性を受け入れ、絶望することで本当の希望を持つことができると考えている。

採
点
欄

令和四年度入学試験

国語 解答 紙(その2)

二	
a	こひしき
形容詞	b
そぼつる	動詞
c	る
助動詞	

問二 摂政殿が、他の者がそれぞれ楽器を演奏してともに万歳楽を奏するとき、ご自身も担当の琴を奏でて合奏に加わったということ。

問三 摂政殿の息子の忠通はまだ一三歳ではあるが、この先長きに渡って栄達を重ね、やがては宮中で高い地位に上るといふ様子。

問四 (1) 五節の舞姫の髪飾りから思い出される、かつて慣れ親しんでいた堀河天皇の御所。

(2) 周防の内侍は崩御した堀河天皇に仕えていた女房であるので、かつての堀河天皇の代の豊明の節会の思い出を共有し、語り合うことのできる人物だから。

問五 このまま年が暮れ新年を迎えるため忙しくなっていると、亡くなった堀河天皇の存在がますます遠いものとなり離れて行きそうな思いにかられたから。

問六 先帝の御所が人の出入りがなく静まり返っているのを見て、屋敷の主人は亡くなったと応答する者はいなくても、御所の様子から先帝がいないことを実感し寂しく思う気持ち。

三			
問一	①	なんじ	②
			たまたま
			③
			べし

問二 「群鴻」は作者が草書体を鳥に見立てた言葉であり、実際の鳥と違って驚いて飛び立つことはないから。

問三 筆と墨を用いて書を作るにあたって、作為やたくらみをもって臨むのは、作品の出来を損なうものであり慎むべきものであるということ。

問四 況んや字の紙に落つるをや

問五 筆墨と遊び戯れ、作為や技巧も持たず、無我夢中になって書の作品と一体となることができた喜び。

氏名

受験
番号

合計点

--